

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表しましたので、送付します。

令和 4 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号「コムギ縞萎縮病の発生」

1 病害虫名 コムギ縞萎縮病

病原ウイルス名 コムギ縞萎縮ウイルス wheat yellow mosaic virus : WYMV

2 発生作物 コムギ

3 発生地域 兵庫県南部

4 発生経過

- (1) 令和 4 年 3 月上旬、県南部のコムギ圃場^{ほじょう}の一部で、茎葉が細長いかすり状に黄化する症状が現れた。そこで、病害虫防除所において、RT-PCR 法による検定を行ったところ、コムギ縞萎縮ウイルス (WYMV) を検出し、コムギ縞萎縮病と同定した。
- (2) コムギ縞萎縮病は、昭和 21 年に県内で多発した記録がある。品種によって本病に対する耐病性が異なり、低温の続く年に本病が発生する可能性が高く、多発すれば減収のおそれがある。

5 本病の特徴

- (1) 圃場の発病の甚だしい部分を中心に同心円状に広がる。また、畦方向に沿って蔓延する傾向がある。
- (2) 早春から茎葉が黄化し、黄緑色の細長いかすり状の条斑や褐色のえそ斑が葉脈に平行して葉と葉鞘に現れる。新葉に淡黄緑色の退色斑を生じ、モザイク症状になる。
- (3) 分けつが減り、草丈が低くなる。また、根の伸長が悪くなる。下葉は黄変して葉先から淡褐色になり、次第に枯れる。症状の激しい株は、茎立ち後に黄化し、枯死する。

6 伝染方法

WYMV はそれを保毒した土壌中の *Polymixa* 菌がコムギの根に寄生することによって、コムギに感染する。感染は 5~15℃で起こり、冬期間に日平均気温 10℃以下が 30~40 日間あることが発病に必要と考えられている。病徴は日平均気温が 5℃前後で最もはっきりと現れ、10℃を超えると不鮮明になる。

7 防除対策

- (1) 農機具に付着した汚染土は伝染源となるため、次の対策を行う。
 - ①発病していない圃場から作業を開始する

- ②作業後、他の圃場へ移動する前に農機具（ロータリー等）の土を十分に落とす
- (2) 菌密度を下げるためには、オオムギを2年程度作付けする麦種転換が有効である。なお、本病に汚染されると水稻等への輪作や休耕で伝染源を消滅させることはできない。
- (3) 本病の感染リスクを下げるため、11月以降の適期播種もしくは晩播を行い、早播きを避ける。また、晩播の場合は播種量を多くすることで収量減対策となる。
- (4) 発病には品種間差が大きいため、多発ほ場では抵抗性を有する品種への転換を検討する。

8 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）

電話番号：0790-47-1222

ファクシミリ：0790-47-1821

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページ
(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載しています。



写真 上：畦に沿って黄化症状が発生 左下：葉の黄化 右下：かすり状の条斑